

2017 年 3 月 28 日

新型 Audi R8 Spyder を発売

- ・ 自然吸気 5.2ℓV10 高回転型エンジンは最高出力 540 馬力を発揮
- ・ 美しいフォルムを実現するソフトトップは 50km/h 以下なら走行中も約 20 秒で開閉可能
- ・ エンジンの片バンクを休止させるシリンダー オンデマンド (COD) を採用。省燃費走行も実現

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）はフラッグシップスポーツモデルの Audi R8 のオープントップモデル Audi R8 Spyder をフルモデルチェンジ。本日より受注開始、7 月上旬より全国の Audi Sport 店（25 店舗、現時点）を通じて発売いたします。

2010 年に 1 世代目が発売された Audi R8 Spyder が、卓越したダイナミック パフォーマンスに加えてスーパースポーツカーの常識を覆す快適性を手に入れた 2 世代目へと大きく進化しました。新型は Coupé と同様、ボディサイドのエアインテーク部にサイドブレードを装着することで、ミッドシップスポーツであることをアピールします。フロントには左右それぞれに 37 個もの LED を備えた LED マトリックスヘッドライトを標準装備。LED リヤコンビネーションライトの間にハニカムグリルを装着することで Coupé とは異なる表情を演出しています。フレームにはアルミとカーボンファイバー強化プラスチック (CFRP) を組み合わせた総重量わずか 208kg の新世代のアウディ スペース フレーム (ASF) を採用することにより、ねじれ剛性は先代モデルとの比較で 50% の改善を果たしました。

油圧電動式ソフトトップは遮音性に優れたクロス製で、フレームにはアルミニウムと鋳造マグネシウムを採用、トップコンパートメントカバーは CFRP 製となっています。重量は約 44 kg で軽量化と低重心化に貢献しています。開閉に要する時間は約 20 秒。50km/h 以下であれば走行中の操作も可能です。

最高出力 540PS を発揮する自然吸気 V10 5.2ℓ の高回転型エンジンは、7 速 S トロニックトランスミッションを介し、新開発の quattro フルタイム 4WD システムへと動力を伝達します。電動油圧多板クラッチは、運転状況に応じて駆動トルクを自動で分配し、極限の状況では前輪または後輪のいずれかへ 100% のトルクを伝達することも可能です。また、低負荷時にはエンジンの片バンクを休止させるシリンダー オンデマンド (COD) を採用。アクセルペダルをオフにしたときにはエンジンを駆動系から切り離すコースティングモードとあわせて、高い燃費性能を実現します。

インテリアはモノポストデザインで各操作がドライバー中心に設計され、メーターパネル内に設置された 12.3 インチの TFT ディスプレイに、スピードメーターやタコメーターだけでなく、ナビゲーションシステムを始めとする様々な情報を表示できるアウディ バーチャル コックピットを標準装備しドライバーの目線の動きを最小限に抑え、スポーツドライビングをサポートします。

新型 Audi R8 Spyder は、AUDI AG のネッカーズルム工場近くに新設されたベーリンガーホフ (Böllinger Höfe) 専用工場で作られています。

モデル	エンジン	トランスミッション	駆動方式	アフリグ	車両本体価格 (税込)
Audi R8 Spyder V10 5.2 FSI quattro	5.2ℓV型 10気筒 DOHC 540PS/540Nm	7 速 S トロニック	quattro	左/右	26,180,000